

会社の  
仕事の流れと  
利益が  
生まれるしくみ

## はじめに

### 損得計算に強くなり採算意識を身につけよう

会社の数字と利益の学習をはじめましょう。

会社の数字というと、経理や原価管理の担当者の仕事だと思われるかもしれませんが、そんなことはありません。会社の経営成績は「利益」によって評価されます。したがって、利益のことを考えずに仕事をすすめることはできません。利益をどのようにあげていくか、それが仕事の判断や評価の基準になっているからです。

会社の数字と利益を理解すれば、会社の仕事の流れとお金の流れがよくわかるようになります。そして、どのように仕事をすすめれば利益を増加させられるかがわかるようになります。仕事の中に潜んでいるムダも見つけやすくなります。数字をとらえていくことによって、仕事の評価も明確になります。

それでは、どのように会社の数字と利益を考えていけばいいのでしょうか。専門家になるわけではありませんから、いまやっている仕事が儲かっているかどうか、という損得計算や採算意識を身につければいいのです。この講座では、「売上高」「費用」そして「利益」の3つの考え方をもとに、損益のとらえ方がはっきりわかることを目標に学習をすすめることにしましょう。

決して難しく考えないでください。数字を扱うといっても加減乗除の計算ができれば十分です。数字がわかったからといって、儲かる仕事ができるわけではありませんが、数字がわかって仕事をしていかなければ儲けにつながる取り組みはできません。計数に強くなることは、経営の発想を身につける第一歩になります。

はじめに	3
<b>I. 仕事の判断は儲かるかどうか基準に</b>	<b>5</b>
1. 会社の目的は利益をあげ続けること	6
2. 売上げがなければ何もはじまらない	8
3. 仕事をすれば費用がかかってくる	10
4. 費用を上回る売上げがあれば利益が出る	12
5. 利益を増やすための目のつけどころ	14
6. 売上高を増やすにはどうすればよいか	16
7. 費用を減らすにはどうすればよいか	18
8. コピー1枚とるのに必要なコストは	20
研究課題 I	22
<b>II. 会社に利益がもたらされるしくみを知ろう</b>	<b>23</b>
1. 粗利益を考えて仕事をすすめていこう	24
2. 利益率と原価率の求め方を知ろう	26
【セミナー】 計数に強くなるための基礎知識	29
3. 営業活動をシミュレーションする	30
4. どのような費用がかかっているか	32
5. 別な切り口から費用を分解してみよう	34
6. より現実的に利益をとらえていこう	36
7. 原価の全体像はどうなっているか	40
【セミナー】 原価（コスト）と費用の違いは何か	42
研究課題 II	44
<b>III. 仕事の流れとお金の流れの関係をつかむ</b>	<b>45</b>
1. 会社にはどのような仕事があるか	46
2. 会社の仕事の流れはどうなっているか	48
3. 会社のお金の流れはどうなっているか	50
4. 会社の「ツケ」と「カケ」を理解する	52
5. 会社にあるモノはお金が姿を変えたもの	54
6. 在庫はお金が寝ているものと考えよう	56
7. 資産になっているお金の出所はどこか	58
8. 人の働きのムダはコストを増加させる	60
研究課題 III	62
<b>IV. 儲かる仕事をするにはどうすればよいか</b>	<b>63</b>
1. 改めて売上高と原価の関係を見よう	64
2. コストダウンの重要性を理解しよう	68
3. 営業（販売）部署の儲かる仕事の仕方	70
4. 生産（製造）部署の儲かる仕事の仕方	72
5. 管理（間接）部署の儲かる仕事の仕方	74
【セミナー】 原価低減に原則はあるか	76
研究課題 IV	77
研究課題・解答とヒント	78



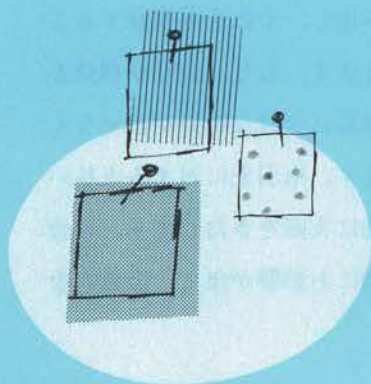
うこるせ解もはき益解おの目会社



## 仕事の判断は 儲かるかどうか基準に

1. 会社の目的は利益をあげ続けること
2. 売上げがなければ何も始まらない
3. 仕事をすれば費用がかかってくる
4. 費用を上回る売上げがあれば利益が出る
5. 利益を増やすための目のつけどころ
6. 売上高を増やすにはどうすればよいか
7. 費用を減らすにはどうすればよいか
8. コピー1枚とるのに必要なコストは

I



# 1

## 会社の目的は利益をあげ続けること

私たちが会社で仕事をする目的は何でしょうか？

改めて、このような質問をされるととまどってしまいますが、一般に考えて、日々の生活の糧である給料（賃金）を得ることは、基本的に大事な目的と言えるでしょう。お金を稼ぎ出さなければ、生活自体が成り立ちません。

### 事業の目的

それでは、会社の行う**事業の目的**は何でしょうか？

社会における会社の存在——というようにところから考えはじめるとたいへん難しい問題になりますが、ここでは最も原則的な見方で単純化して言うと、

### 利益

会社のいちばん重要な目的は「利益」をあげ続けること

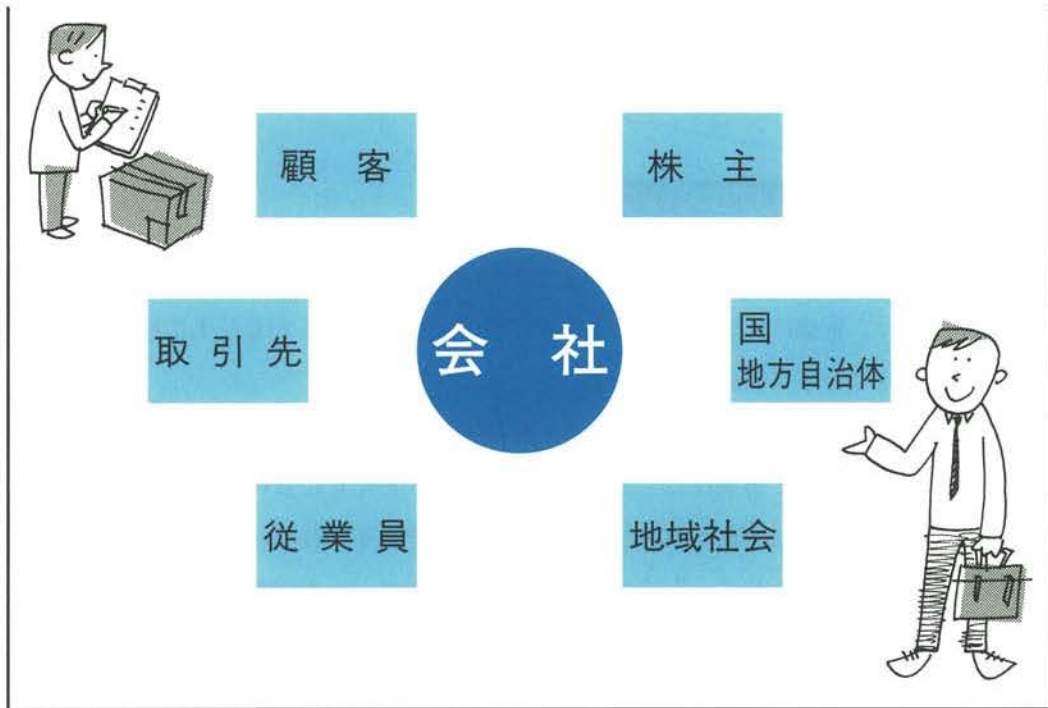
になります。

### 利害関係者

会社は利益をあげることで、会社を取り巻きさまざまな人たち（**利害関係者**）に利益をもたらします。まず、お客様（顧客）には適正な価格で良いモノやサービスを提供できます。従業員に対しては、十分な給料を支払うことができます。取引先には滞りなく代金を支払えます。また、株主には多くの配当が可能になります。さらに、利益の中から国や地方自治体に税金を納めることができます（図表 I・1）。

このように経済活動は、会社が利益を生み出し、それを再投資することによって、良い循環を繰り返すことができます。もし、会社が利益を出せなくなると、どうなるでしょうか。従業員に十分な給料が出せなくなったり、株主への配当が見送られたりします。取引先に対する支払いが遅れたり、滞ったりすれば円滑な経済活動に支障をきたします。税金が支払われなければ、国や地方自治体の活動にも影響が出て、公共的なサービスが低下してきます。

図表 I・1 会社を取り巻く利害関係者



このように、会社は社会における経済活動の主体としての重要な役割を担っています。会社の事業は法律や社会的ルールに従って展開されなければなりません、利益（儲け）を考えない事業は成り立ちません。

会社で仕事をするとき、常に

いかに「利益」を増加させるかという「採算（儲け）意識」

採算意識

を持って取り組む必要のあることを肝に銘じておきましょう。会社は利益をあげ続けることで社会に貢献しています。

会社の行う事業（ビジネス）は、つまるところ「儲かっていくら」の商売の世界です。利益がなければ何も始まりません。私たちの仕事も商売を抜きに考えることはできません。むしろ、その仕事によってどれだけの利益があげられるかを考え、より多くの利益を生み出すためにどのような行動をするかが大切です。「儲ける」ことは、とても大事なことであり、とても良いことなのです。